

かいほりなんかよくやりました。これをやるとずいぶんとれるんですよ。特に秋は水が少なくなるので土堤を築いて、鮒やえび、鯉なんかを取りました。どじょうは春にね。まだ田んぼ仕事が始まらない頃、稲株の下を探すと穴があるんですよ。そこを手でほると、必ず取れましたよ。どじょうぶちは苗代を作った頃の夜が一番取れるんです。灯を持って田んぼに行くと、どじょうが田んぼの水の底に、長く寝ているんです。ほんとに気持ち良さそうに、長々と寝ているんですよ。それをヤスでぶったんです。ちよっとかわいそうですけど、それほどもずいぶん取れました。今のどじょうは気味の悪いほど肥っているんですけど、その頃は食べても毒もないし、おいしかったですよ。

秋になると、いなご取りをやりましたよ。ほんとにあの頃は田んぼのあぜ道を歩いて行くと、ばらばらばらばら、跳ねて跳ねて、取りきれませんですよ。こどもらは皆でビールビンなんかを持って行って、競争で取って、ビンの中に入れてたんです。すくいっばいとれましたね。それを持って帰って、焼いたりして食べました。私はあんまり食べませんでした。いなごはとて薬になるそうですよ。「コン」の薬になるなんていってね。コンというのは肝臓の事でしょうか。

ほたるは夜になると、とてもきれいでした。何しろここから霞ヶ浦まで田んぼでしょう、だから、夏の夜夕涼みに出ると、あたり一面ほたるが飛びかかって、湖の上には月が出て、とてもきれいでした。今は一匹もいませんけど。

そうそう、お月様で思い出したんですけど、十一月の二十三日は、霜月三夜というんでしょうか、月がとてきれいなんです。それも湖の上を、それこそ、ふうわりふうわりとゆれゆれ上るって言われていました。だからこのあたりの人は、この日になると十一時頃まで寝ないでね、「三夜講だ」なんて言ってね、みんなで鷺の宮の山に集って、月の出を待っていたんです。とーっても寒いんですよ、この頃は。みんなどてらだの、綿入れ筒っぽうを着たりして、山の上で待っていたんです。そうすると、いつもの月と違って、霜月の三夜様って言うのは、どういふかげんか、ゆれゆれ上っていくんですよ。湖の上をね。それを皆、高くなるまで押んでいたんですよ。帰るのは十二時頃でした。

冬の漁は大変でしたよ。夜中に出るんです。「網引き」っていうのがありますね。これは何艘もの船で引くんです。漁を始めるまでが大変なんです。というのは、あの頃は今と違って、とても寒かったですよ。何し